

## 第10回気仙沼市震災復興推進会議について(開催概要)

1 日 時：平成26年7月14日（月）午後2時～午後4時15分

場 所：ワン・テン庁舎 大ホール

出席委員：32名（42名中）：代理含む

### 2 議事内容

- ・復旧・復興事業の進捗状況について

### 3 主な質疑等

- ・新聞に掲載された防災集団移転事業の土地造成に関し説明願う。  
→売主が買主に保証する瑕疵担保責任により、保証時に備えて売主の保険加入が必要になった。保険加入時に保険業者が行う調査基準が異なっているため、同じ造成箇所でも一部の建主が基礎の強化を求められる事例が生じた。この問題は他の自治体では起こっていないと聞いているが、未解明な部分が多く調査を行っている。対応が必要であれば国と協議する必要がある。
- ・嵩上げた土地の耐震性は十分なのか。  
→盛土前の地盤強度の調査及び盛土後の地盤強度測定を行い、できる範囲の地盤改良を行い盛土している。
- ・現在の魚市場にはトラックヤード（積み込み場所）が整備されておらず、魚の搬出に労力を要する。市場とは別の場所にトラックヤードの整備を願う。  
→魚市場構内より鮮魚を積み込み搬出する場所をトラックヤードとして、水産加工製品を集積させ各地へ運搬する場所をトラックターミナルとして整備する計画である。トラックヤードは鮮魚搬出が目的なので、市場構内に横付けできる場所が確保できれば十分であり、機能を十分に果たせる場所を構内に確保し計画を進めている。一方、トラックターミナルは、臨時的に使用しているため、繁忙期に向けて応急的な場所の確保について調整している。恒久的なトラックターミナルは市場から少し離れた場所に建設する計画である。舗装までは市が行い、建築物はトラック協会側の負担になると考えるが、建設時の補助があり得るかもしれない。
- ・市場前の防潮堤整備位置が市場に近すぎるため、市場機能の低下が危ぶまれる。隣接道路の陸側に移せないのか。  
→道路の陸側への建設については、これまでの県との打ち合わせの中で、難しいと認識している。また、防潮堤の有無にかかわらず、市場機能という観点では市場への入り口の数・幅を確保することが必要である。
- ・魚市場に建設予定の乗り越し道路は必要なのか。  
→乗り越し道路建設に関しては、防潮堤の閉め方の規則が関わってくる。県側は早く防潮堤を閉めたい考えであるが、防潮堤の場所によって閉める時間をルール化し、安全なタイミングで閉めることが必要である。出入口の閉鎖後、海側に人や車が残された場合の対策として乗り越しを設計していると考ええる。
- ・全船舶の船倉水を浄化できると聞いているが、魚市場浄化施設の船倉水処理能力について説明願う。  
→全ての船の船倉水の処理は、現段階では実施せず一隻程度で試す必要がある。結果次第では、全ての船の船倉水処理が不可能なことではないと考える。

- ・造船団地建設に伴い、湾構内の船の動線が大きく変わると考えられる。その結果、問題も生じるであろう。
- 現在のところ、動力停止船をタグボートで移動させているが、新たな造船団地までの距離は長く、途中で往来船があった場合には、接触等の危険があるという指摘があるかもしれない。造船所の対応も確立すべきであるとする。
  
- ・気仙沼港の岸壁不足対策について早急な整備を願う。使えない状態であった岸壁をその状態で復興しないといけないという状況になっている。この点に関しても、市から県に対して使えるよう要望を願う。
- 魚市場に新設される岸壁南側の端と、旧気仙沼造船所脇の商港の端の間に、直線で結ぶ岸壁を造る計画が県には存在するが、計画としては示されていない。本市では、県に対し、その岸壁を気仙沼港の岸壁の中で最も深く整備してもらうよう要求している。気仙沼港が対象としている漁業種の中には、吃水 6m 以上の船を使っている漁が出現しており、魚市場機能の観点からも 8.5m 程度の水深が必要になる。県を通じて水産庁にも要望していく。指摘された岸壁に関しては、3m 水深岸壁であると県から聞いているが、実際は、もっと深いと考えている。状況も踏まえ県の方に問いかけていきたい。
  
- ・太陽光発電設備導入事業における「地元産業振興との関連性が低い」という課題について、なぜそのように考えるのか。
- 本市には、太陽光発電パネルの設置業務を行う事業所はあるが、パネル製造を行う企業はないため、「地元産業振興との関連性が低い」とした。
  
- ・太陽光発電設備導入事業のパネル設置数が昨年度と比較して一施設減っている理由について説明願う。
- 太陽光発電の導入事業は、平成 27 年度末に限り事業を行う。そのために、事業的にできない箇所を外す必要があったためである。
  
- ・掲載された太陽光発電パネルの発電容量はどのようにして推測したのか。日照時間等は考慮に入れているのか。
- 年間の日照時間を算定し、標準的な算出法を用いて発電量を試算した。晴天、雨天を考慮した平均出力で算出しているため、実際の日照時間により、実測値が算出値よりも上下する可能性がある。資料中に記載した数値は、設置した建物全館を明るくはできない。補助発電機を備え付けておかなければ、避難時には対応できない。公共施設には、電力が十分確保できる補助電源を備えておく必要がある。
  
- ・再生可能エネルギー導入プロジェクト中に記載されている、協議会、戦略会議および導入推進委員会の立ち上げに関する今後のスケジュールについて説明願う。
- 状況を見ながら立ち上げ等に関して検討していく。
  
- ・図書館は震災により大きな影響を受けている。児童・生徒にも必要であるので、その整備に関してお尋ねしたい。
- 地震によって被災した図書館を復旧するが、一部を拡張して整備する予定である。児童センターの併設、インドネシア政府からの寄附金を活用した児童図書コーナーの設置も行う。現在は、プロポーザル方式を活用するための準備を行っている。
  
- ・職員確保の状況について説明願う。幅広い人材の確保は、若者の気仙沼定着に繋がり、これから気仙沼の力になるものとする。
- 全国の自治体に即戦力となる自治体職員の派遣を依頼する一方で、本市で雇用する職員募

集をかけている。任期付職員については、専門性を必要とする土木・建築職員に関して地元の応募が得られず、今年から首都圏でも募集をかける予定である。広いネットワークの中で、人材の発掘体制を取っている。